

	開催日	テーマ	講師	参加人数	参加者の声
第1回	令和元年 9月4日 (水)	「精神科医としてひきこもり支援に関わって ～皆さんと一緒に考えましょう～」	平本 憲孝氏 (平本医院 院長)	84名	「子供の足りないところばかりが目に入ってイライラしていましたが、もっと認めてあげたいと思った。」 「面白くてわかりやすかった。今のままの子供を認めて、大切に思っていることを伝え続けた」
第2回	10月16日 (水)	「家族の想いが届く話し方 CRAFT(クラフト)の技法に基づいて」	光田 豊茂氏 (関西学院大学 講師)	77名	「公私ともに自分自身の立ち振る舞いを見直すきっかけになった。たくさんの気づきがあった。」 「相手を思い通りにする、変えるのではなく、自分のかかわり方や言葉がけを変えていくという誰でもできることを教えて頂いた。」
第3回	11月6日 (水)	「不登校・ひきこもりの理解と支援」	船越 明子氏 (神戸市看護大学 教授)	72名	「成長期の心の発達の様子や対処の仕方など参考になった。」 「不登校・ひきこもりの背景や支援の方法、大切さを分かりやすく知ることができた。」 「思春期の我が子の状況がよく理解できた。」
第4回	12月18日 (水)	「DRM(だれも)活動とひきこもり支援の取り組み ～就労支援をとおして～」	前川 裕司氏 (認定特定非営利活動法人コムサロン21 理事長)	69名	「サポートの方法、機関が数多くあることが分かった。」 「就労支援の方法、ひきこもりから就職までのステップを聞いてよかった。」
第5回	令和2年 1月15日 (水)	「引きこもりを巡る考え方の変遷 ～平成30年間を振り返って～」	津谷 治英氏 (神戸新聞社)	70名	「経験者の話が聞いてよかった。」 「内容も分かりやすく、聞きやすかった。孤立を防ぐ大切さを感じた。」 「引きこもりの歴史が理解できた。」
第6回	2月18日 (火)	「自宅から居場所への移行支援を考える」	阪田 憲二郎氏 (神戸学院大学 総合リハビリテーション学 部長)	52名	「ひきこもりの実際の話、支援への繋がり方がわかりやすかった。事例が多く支援の内容経過がわかりやすかった。」 「明石の居場所を知ることができた。」